

技術00

技術名：RNIP αによるVOC原位置浄化工法

申請者：株式会社タツノ

ケース①、③、⑥、⑧

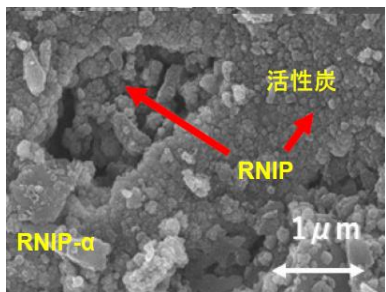
技術の種類：原位置浄化

【技術の概要】

RNIP αは高濃度VOCに非常に速い速度で低減することが可能です。また還元反応効果が持続するため残存する物質に対しても有効です。注入工法はグラウトパッカー工法を採用し、深度毎に圧力注入することで効果的に地盤へ浸透し、効率よく濃度低減を促進します（RNIP αは柱状改良攪拌混合にも使用できます）。

対象物質	第1種特定有害物質（ジクロロメタン除く）
適用濃度	各物質とも第二溶出量基準、第二地下水基準の対応可能。 基準値の10000倍程度まで対応可能。 ※ただし適用濃度は事前の適用試験の結果により変動する可能性あり。
適用条件	・油分の浄化及び濃度低減には適応していない。 ・GL-1.0m以浅の汚染については原位置ミキシングにて実施。 ・添加量は汚染濃度・土質状況により変動する。

RNIP α

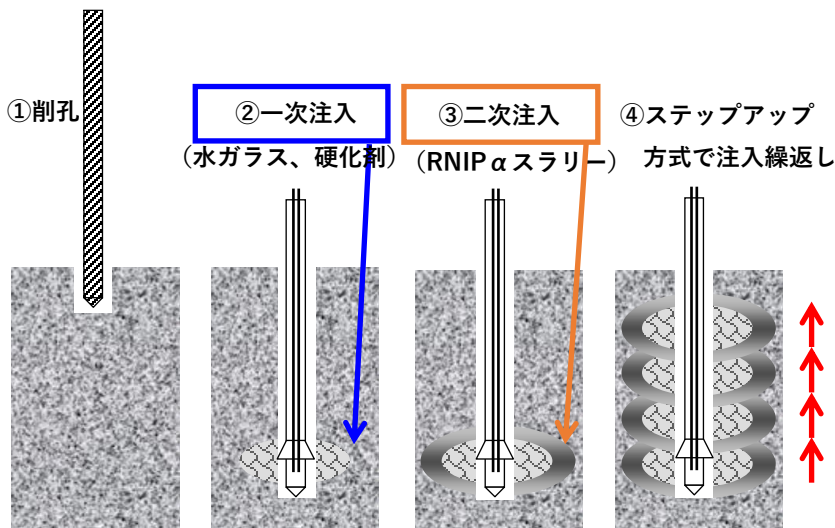


RNIP α 粒子構造
ナノ鉄粉還元 + 活性炭吸着機能



RNIP α スラリー状

作業手順



- ①対象深度までボーリングマシンで削孔
- ②一次注入で瞬結材を空隙に充填
- ③二次注入でRNIP αを土壌・地下水に注入
- ④0.5m毎にステップアップ②～③をGL-1.0mまで繰り返す (GL ± 0.0m ~ -1.0mは重機攪拌)

施工状況

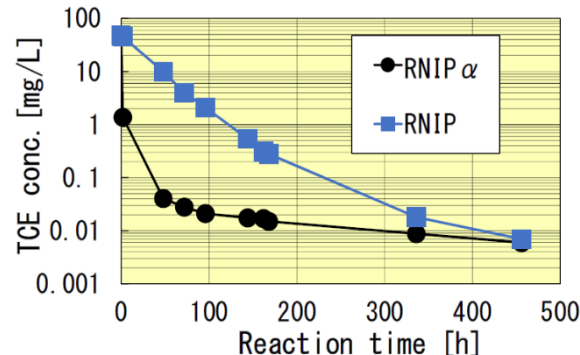
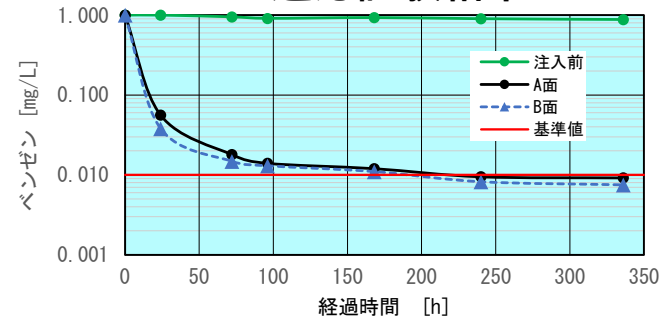


RNIP α 注入プラント



100㎡当たり36地点注入

適応試験結果



活性炭の吸着性能により短時間で大幅な濃度低減を実現

技術00

技術名：

今回申請の技術名を記載してください

申請者：

法人名を記載ください

ケース〇

技術の種類：

対象物質

対象物質を具体的に書きます。
例) カドミウム、シアン、鉛、六価クロム・・・など

適用濃度

第二溶出量基準若しくは第二地下水基準への対応が可能かがポイントとなります。基準値の何倍までの汚染が対応なのか。各技術が対象としている物質毎に対応可能な濃度レベルが異なることも考えられますので、その場合は、詳細に記入ください。

【技術概要】

ケース①、ケース②、・・・ケース⑧の提案いただいたケース番号を入れてください。(ケース①、③) とか両方に対応している場合、両方入れてください。

- ・原位置浄化
 - ・原位置封じ込め
 - ・遮水工封じ込め
 - ・原位置不溶化
 - ・不溶化埋戻し
 - ・揚水施設
 - ・透過性地下水浄化壁
- この7つの措置から選択する。複数の組合せもあり

提出していただいた、申請書別紙1 施工技術の概要を記載ください。

図表等を用いて技術を説明

当該パワポ資料を環境局のHPに載せようと思っています。当該技術について、説明する図、表、文書などを自由に記載ください。HPに載せてNGな秘密事項は削除ください。